



これから本を作るあなたのために、本作りで失敗しないためのポイントを5つにまとめてみました。

こんにちは。

はじめまして。担当の小林と申します。

今回は資料請求ありがとうございます。

さて、あなたが本をつくろうと決心され、当社にご相談いただく前に、確認していただきたいことがあります。



それは、ポイントその①本のジャンルについてです。

あなたの頭の中に描かれている本は、どのタイプに属しているでしょう？

本のジャンルには、ご存知のように、いろいろあります。

- 歌集、句集
- エッセイ、ポエム、日記、手紙
- 小説、自分史
- 自叙伝
- 評論
- 学術論文
- 旅行記
- 体験記
- ハウツウ本
- ビジネス関連
- 絵本
- 写真集
- その他

たくさんあります。

このようにたくさんあるなかで、ジャンルがきめられると、大体の本の大きさが選択されていきます

ジャンル、本の大きさから、表紙、製本加工のやりかたが（仕様）変わります。



ポイントその②本のサイズは、代表的なものに、が、あります。

B 6判（128×182mm）	体験記等
四六判（127×188mm）	歌集、句集等
A 5判（148×210mm）	ビジネス関連等
B 5判（182×257mm）	絵本等
A 4判（210×297mm）	学術論文、手引書に多い



ポイントその③原稿について

原稿は、入稿のスタイルに、1手書き 2テキストデータ 3完全原稿 があります。

このスタイルはあなたが選択されるわけですが、ここでちょっと簡単な説明をさせていただきます。

1手書きの原稿は通常400字詰原稿用紙に書かれたものをいいます。そのため、データ作成という作業が、必要です。そこで、別途、入力作業の費用が発生いたします。ご了解ください。

2テキストデータはTXT原稿をいいます。あるいは、ワードデータで作成されたものでもOKです。

3完全原稿とはイラストレーターというソフトによるデーターをアウトライン化したもののことです。

完全原稿で渡していただきますと、非常に経済的です。

ただ、イラストレーターというソフトは仕事用のソフトで、だれでもが持っているというものではありません。



ポイントその④フォントの大きさ

パソコンで原稿入力の際、フォントのポイントを選ぶわけですが、本のサイズから、読みやすいフォントの大きさがあります。参考までに、お教えしますと、

▶ B6判、四六判、A5判では、一段組みの場合10P、二段組の場合9Pが最適とされています。

▶ B5判、A4判では一段組みで10.5P、二段組で9～10Pが最適と考えられています。



ポイントその⑤校正して完了

さて、これで、本の仕様がほぼ、決まりました。

あなたから送られてきたデータを元に、印刷会社では編集作業にとりかかります。



編集された原稿はプリントされ、あなたのもとに届けられます。校正作業にとりかかってください。



校正作業というのは、なんのこと？とお尋ねの方にお知らせします。校正作業とは、文字の誤りを原稿と較べて正すことをいいます。それで、太くて赤い筆記具を選んで、訂正箇所楷書ではっきり正しい文字を書き込んでいただくと、誤字、脱字の間違いがよくわかります。

こういう校正作業はお客様が納得されるまで、何回もいたします。



最終的な校正のOKをいただいてから、印刷にとりかからせていただきます。

印刷にとりかかってからの、訂正は不可能です。

そのため、何回も納得のいくまで、校正を繰り返すわけなのです。

校正が終了しますと、ページの割付ということをしします。これは専門的な作業になります。



印刷後、製本加工して、納品。

あなたのもとに本をお届けいたします。

以上簡単な、本ができあがるまでの流れを説明させていただきました。

さて、流れはわかったとして、それじゃ印刷費はどれくらいかかるのということはこちらではわかりませんよね。

それでは、当社ホームページに come back。そして、見積もりフォームにご入力ください。あなたの本づくりの印刷費がどれくらいかかるのかお知らせいたします。